

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070201542		
法人名	医療法人 梓誠会 梓川診療所		
事業所名	グループホーム あずさ小町		
所在地	長野県松本市梓川梓2344-1		
自己評価作成日	平成25年12月27日	評価結果市町村受理日	平成26年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/20/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&ji_gvos_yoCd=2070201542-00&PrEfCd=20&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府3307-5
訪問調査日	平成26年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ○ ターミナルケアに力を入れております。ご家族・医療機関・職員との連携にて安心して終末期を迎えることが出来る様に支援をしています。 ○ 年間を通して梓川西保育園・梓川中学校・ボランティアとの交流を行っています。 ○ 花や野菜を育て、収穫の喜びや季節を感じていただいています。 ○ 作業療法士による手仕事クラブを毎月1回実施し、作品を作って楽しんでいます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>このグループホームは同一法人の診療所を中心として・老人ホーム・リハビリテーションなどの施設を近隣に備えた健康に安心できる施設である。医師の往診は月2回以上あり、歯科医師の往診も月2回ある。専任の看護師もいて、毎日の健康管理には万全を期している。職員も利用者の健康・安全には細心の注意を払い、毎日の個別記録をとっている。そして、早くからターミナルケアのマニュアルを備え、職員全員でその実践を何回も積み重ねて来ている。</p> <p>そのため、毎日の食事は業者委託のおかずが多いが、重度化し、高齢化して問題を抱えている現在のグループホームの一つの在り方として注目される存在である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名(西)		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	①大いに増えている ②少しづつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目: 28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰でも分かるエントランスホールに理念を掲示し、毎朝の朝礼にて職員皆で音読して理解し、日々の仕事につなげている。又、名札の裏にも理念を印刷、常に携帯している。	「一人ひとりの思いを大切にした支援、医療との連携による安心した生活、家族の思いを受け入れ地域と交流する生活、自己成長を目指す実践」の四つの理念を「小町だより」に載せ、外部に広く知らせようとしている。また、その理念を名札の裏に印刷して携帯し、音読することによって常に意識している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	梓川西保育園児、梓川中学校生徒との交流。常にボランティアの受け入れはしている。	梓川西保育園の運動会参観や歌・遊戯の交流会、梓川中学校生徒との紙芝居観賞などを行っている。そして、地域のボランティアの方々との物作りや野菜作りなども行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同一法人施設内で勉強会がある時は、地域の方々に声掛けをしている。又、民生委員・包括センター職員と2か月に一度は話し合いを持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話や他のグループホームの情報などは、ミーティングで取り上げている。	2か月に1回、包括センター職員・民生委員・家族代表・近隣のグループホーム職員の参加を得て、運営推進会議を行っている。近隣のグループホーム職員の参加により、情報交換がいろいろできている。	自治会など地域の方の参加を得て、地域と広く結び付き図ることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運根推進会議には包括センター職員が来所され、連携を取っている。「小町だより」を渡し、見ていただいている。	運根推進会議に出席している包括センター職員に「小町だより」を渡し、見ていただいていることは、事業所の様子を具体的に分かってもらえる点で大変有効であると思われる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ。安全を図るためベルトを短時間使用。検討会などを通じて、解除に向けて取り組んでいる。	歩きまわり転倒しそうになるので、車椅子のベルトをする事例や、夜中に徘徊して他の部屋に入るので拘束する事例があるが、家族とも相談し同意をとって、時間を決めて行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同一法人施設内で勉強会に参加したり、ミーティングの場で事故報告書やヒヤリハットの問題点を話し合ったりしている。外部への研修会も参加している。		

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の研修会に参加して理解している。相談があれば活用する予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をしているので、納得されている。問い合わせ時にも理解が得られる様説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との対話の時間を大切にし、話せる機会としている。意見箱を設置している。家族会時に意見、要望を聞く様にしている。運営推進会議で話し合っている。	運営推進会議が行われる時に合わせて、年3回と多くの回数の家族会を開き、家族会で出された意見や要望を家族会の代表が運営推進会議に出して話し合うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のミーティングで職員の意見を聞き、反映できるようにしている。又、管理者が同一法人施設の各部署より責任者が集まる会議で話し合っている。	ケア会議とは別に、毎月1回のミーティングで職員の意見を聞き、反映できるようにしている。そして、管理者が同一法人施設の各部署より責任者が集まる会議に参加し、話し合う仕組みになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員への面談・年2回評価・個々のアンケート調査の実施。又、職場環境改善や評価をステップアップにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や勉強会に皆が参加している。新人研修プログラムがあり、活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くのグループホームの職員の方々と話し合う機会を作っている。お互いの運営推進会議に出席している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談や施設見学で、本人の要望、希望を取り入れて、安心、安全な生活を送っていただける様、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接や施設見学で、ご家族の要望や困難状況を伺い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の望むサービスの提供をすると共に家族支援もしていく。又、本人の身体状況を見ながらサービス計画を立てている。1か月で必ず再検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に適した作業を一緒に見つけ、職員と一緒に達成感を味わう。作業療法士による手仕事クラブで作ったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所内でのお花見・夏祭り・クリスマスなどのイベントなどもご家族に参加を呼び掛け、一緒に楽しんでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得て、外出・外泊の機会を設けている。	本人の友人・知人が訪ねて来た時には、ゆっくりできるように支援している。また、お正月やお盆には自宅に帰ったり、家族と一緒に外食したりするよう機会をなるべく持てるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団レクリエーションや誕生日会などの行事に参加して、皆で喜びを共有している。		

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用中止になっても相談があれば受け入れる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と1対1でゆっくり話ができる時間を作り、相談相手となり、希望や意向をとらえている。そして、その希望や意向が担当に届く様個別記録を毎日記入し、担当はそれを見て密接な関わりを図っている。	ケアマネージャーから送られてくる基本状況表・面接調査・入所判定表を基にして、毎日の個別記録を取る中で本人の思いや意向をとらえ、担当者を中心に共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や情報収集で本人の持っている力を引き出している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の様子を観察し、把握に努め、各自のペースに合わせた生活ができる様になっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングやカンファレンスを行い、担当者等の意見を聞き、介護計画を立案。実施している。	担当者を中心としたチームで意見交換をして、本人やご家族が望んでいる介護計画を作成している。そして、モニタリングを通して介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入して、ミーティングで統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人の診療所・老人ホーム・リハビリテーションと連携して、本人の希望により作業療法などのサービスが利用できるようにしている。		

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回、同一法人の老人ホーム・リハビリテーションと連携して行う合同レクリエーション(アクティビティ)に積極的に出る様になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望を大切に、24時間体制で安心した生活を支援している。ご家族の希望があれば他の病院も紹介している。歯科の往診もしている。	同一法人の隣接する診療所の、月2回以上の訪問診療を受けることができる。訪問調査の当日も朝から、利用者全員が診療所の医師のていねいな診療を受けていた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常に在勤して、個別記録の保健・健康欄に詳細な記録をとり、本人の体調管理を行っている。特変時の医師への連絡・対応や相談・アドバイスもすぐ受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	記録や内服薬などの情報提供を行っている。又、入院時にはお見舞いなど様子を伺ったり、ご家族との連絡を取ったりし、様子も把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・ご家族・医師・職員で終末期の話し合いを行い方針を共有して、その方にとっての最良の支援をしている。	平成25年度は、2名の方のターミナルケアを行ってきた。このように、利用者が重度化、終末期を迎えるような状況であるので、ターミナルケアについてのマニュアルを作り、実際に活用している。さらに、利用者が元気な時に終末期についての話し合いを提案している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルや連絡体制を作成し、これにそって対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、3月と11月の同一法人施設の訓練に参加している。又、一斉連絡配信システム(オクレンジャー)で送信訓練も年数回行っている。	防災設備は整っており、送信訓練や初期消火・報知機の訓練も行っている。毎月日曜日に行っていたミニ訓練は車椅子利用者の増加などでなかなか出来なくなっている。しかし、隣接同一法人施設との相互援助ができるのは利点である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや言葉遣いには注意して、日々のケアにおいてプライバシーを損なわない配慮をしている。	利用者に重度の方が多く、食事や排泄などに一人につききりになることが多い。それだけ一人ひとりに対して笑顔で穏やかに言葉掛けをして、対応していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向に添って生活できる様に、職員は統一した支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせた暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度の散髪を行っている。衣服選びを職員と一緒にやっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内で野菜を栽培し、収穫した物の皮むきなどの下準備を一緒に行い、味噌汁などに入れ食べている。又、食べられる量や形なども一人ひとりに合った様に提供している。	朝食は福祉献立として、業者から購入した材料を中心に職員がつくっている。昼食・夕食はご飯・味噌汁以外のおかずは業者委託をしている。栄養的には、バランスのとれた献立になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べられない時は形を変えたり、栄養補助食品等を提供したりして、体力維持が出来る様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず実施し、出来ない方は職員が支援して清潔保持に努めている。歯科往診が2回あり、口腔ケアが充実している。		

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、その方の排泄パターンを把握する。声掛けや時間での誘導を行い、その方に合わせた支援をしている。	できるだけトイレで排泄できるように支援している。そのために、利用者一人ひとりの排泄パターンを職員が理解し、時間を見計らって声掛けをして、本人に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を十分とり、体操・散歩などで体を動かし、自然排便を促している。又、毎日牛乳を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回、木曜日、日曜日に実施。身体状況に応じた入浴方法で支援している。	入浴日は決めてあるが、状況に応じた対応をしている。特に、車椅子利用者には同一法人施設の老人ホームの機械浴を利用している。利用者に合わせゆったりとした入浴になるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間に関係なく、その方の体調によって常にベッドに横になれる様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当者が一人ひとりの薬を把握し、症状の変化など記録に残し、主治医との連携で内服薬の調整をしている。職員全員が服薬マニュアルに添って支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の持っている力が発揮出来る様役割を持って生活している。散歩・日光浴で気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	同一法人施設のリハビリテーションの機械を使用して運動したり、テラスに出て日光浴を行ったりしている。又、車を使って季節の花や風景を楽しむよう、屋外に出かけたりする。家族の協力を得て、外出や外泊を支援している。	冬の時期など、散歩などが出来ない時には広いウッドデッキに出て日光浴をしたり、リハビリテーションでリハビリしたり、ストレッチ体操をしたりして気分転換をしている。また、季節の行事などには外出し、外食を楽しんでいる。	

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金管理は事業所側で行っている。本人の希望に応じた小遣いは持ち、使用出来る様になっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、常に電話はかけられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは毎日清掃し、衛生面に配慮している。テラス前では季節感のある草花・野菜を育てている。ホール内は曆に合わせた飾り付けをしている。	共用空間の広いエントランスホール、ダイニングキッチン・これまた広いフリースペースは1階にあり、訪問調査日にはいくつもベッドが置いてあった。これは利用者がいつでもゆっくり休めるように、また、病気の時などには寝たまままで対応できるようにこのことであった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはテレビやソファ・ベッドを置いて、一人ひとりがゆっくりと休める場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は毎日清掃し、衛生面に配慮している。本人の使い慣れた備品等を持ち込み、使用していただいている。	居室は9室とも全部2階にあり、階段2か所とエレベーターが1台設置されている。万一の災害の時には階段やエレベーターを使わず、2階のベランダに集合し、外からの救助を待つというように配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室の場所には目印やわかり易い言葉で表示してある。見守りや声掛けでお互いの疎通をとっている。		